

今後の地方系・独立系証券会社におけるビジネスモデルの在り方とは

地方系、独立系証券会社とは、地域に根差し、個人を対象としたリテール証券営業を重視する証券会社である。その地域に根差した経営戦略や大手と差別化を計った独自色を出すことにその特徴がある。その優位性の根拠は、対象となる地域・顧客を限定することで、その地域のニーズに迅速かつ的確に応えることが可能となる点にある。その反面、地域密着であることは、その地域の経済的状況に左右されることでもある。とりわけ、地方経済は人口減少傾向を背景に停滞状態が予想され、高齢者の財産が都市在住の家族に相続されることが予想されるなど、地方証券会社の経営には厳しいものがある。

加えて、証券ビジネス自体が構造的な変革期にある。証券市場の発展につれ証券会社の取扱商品が多様化するだけでなく、産業構造の転換、高齢化社会への移行、日本的雇用慣行の修正、インターネットなど IT 革命等を背景にして、未公開株の取扱い、資産の証券化、M&A（合併・買収の仲介）、資産管理、インターネット・ブローキングなど、証券サービスに対する顧客ニーズも変化・多様化しはじめている。

こうした動きに対応できているのは、いまのところ大手・準大手、外資系、銀行系、IT 系の証券会社に限られているようであり、地方系・独立系証券会社にとって向かい風となっているように見受けられる。地方系・独立系証券会社は、今後どのように生き残っていくべきか。地方系・独立系証券会社自身の在り方に対し、再考が求められている。

以上の点を踏まえて、本テーマでは地域系・独立系証券会社が抱える課題に対する意見を各チームでまとめてもらいたい。そして地方系・独立系証券会社の特徴である、リテールビジネスの在り方を考察した上で、目まぐるしく変化する社会に対応するべく、具体的な解決策を提案して頂きたい。さらに、地域経済の活性化と地域系・独立系証券会社の発展は不可分であるが、地域経済促進に地域系・独立系証券会社が果たす役割や機能を考察し、あるべき姿について活発な討論を期待したい。なお、地方系・独立系証券会社の対象には、独立系大手やメガバンク系大手、ネット専門証券を含まないとする。

主な論点	留意点
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地方系,独立系証券会社が担う役割や機能 ・ 地方系,独立系証券会社が抱える課題 ・ 対面型およびネットリテールビジネスの在り方とは ・ 地方経済の発展に寄与する地方系,独立系証券会社のビジネスモデルとは 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 収益構造およびビジネスモデルの変遷 ・ 大手、銀行系、ネット専門証券会社との相違 ・ 金融商品取引法 ・ 諸外国との比較